

歯を守れ！予防歯科に命を懸けた男を読んで

今回熊谷先生の歴史を知り、改めて患者さんの健康を守るということに命を懸けてきた熊谷先生の凄さを感じました。私は有名になった熊谷先生しか知りませんでしたので、その領域に到達するまでにどれだけの時間がかかったか、また予防歯科を始めた当時の様子など分かっていませんでした。予防歯科の浸透していない時代に歯科医療の本来のあり方を変えるため海外に学び、そして日本に根付かせるために労力を惜しまず、信念を貫き通した熊谷先生に感銘を受けました。先生の真剣さと積極的な姿勢、決断力などがスタッフを変え、患者さんを変え、患者さんの家族を変え、そして私たち歯科医療従事者、また歯科の学生さらには企業まで変えるという一大ムーブメントを引き起こしたのだろうと感じました。

私は熊谷先生の存在を知り、予防歯科に触れることができ、メンテナンスを終えた患者さんや子どもたちが、ありがとうございます！とはつらつとした顔で診療室を出ていくとき、幸せだなあと感じます。私はスタッフですが、患者さんたちの歯の健康を守ることに貢献していると感じるからです。大学を卒業して数年は、削って埋めてを繰り返して、それが悪いと最初は気づきませんでした。世間の人はずいぶん虫歯が多かったり、歯周病が進んでいたりするのか疑問に思うようになりました。歯を磨かない患者さんが悪いのだろうと思っていた時期もありました。しかし、違いました。私が悪かったのだと思います。修復や補綴ばかりに気を取られて、それを繰り返して行い、どうしたら歯を守れるかを伝えていなかったからです。患者さんは知らないだけで、予防法を教育し、患者さんに行動変容を起こさなければ、何も変わらず、年齢を重ねるにつれて歯を失っていくのを待つだけになってしまうことを私は知れて本当に良かったと思いました。私が生涯、関わっていく患者さんの人数はわかりませんが、かなりの人数になると思います。

この本を読み、改めて、私が生涯関わる患者さんや患者さんの子どもたちが、予防法に精通し、健康で生涯自分の歯で過ごせるように努めていきたいと強く感じました。